# 榮久庵憲司

インダストリアル・デザイナー

KENJI EKUAN

## 世界に向けて、福山の高品質な特色を出してほしい。

海軍兵学校在学中に終戦を迎え、家族が暮らしていた広島市へ戻ると、そこは原爆による焼け野原でした。母の故郷福山市で、妹以外の家族とは会えました。広島の風景を見た後の、鞆の浦の美しい風景、そして米軍の服や手にしていたモノから感じられた豊かさは、今でも心に焼きついています。この経験が、誰もが等しく豊かさを実感することができる「インダストリアルデザイン」に取り組む私の原点となりました。

時代は変わっても、ユートピアを求める人の心は変わりません。福山市には美しい鞆の浦がある。それはとても素晴らしいことです。鞆の浦は朝鮮通信使を迎賓した歴史がありますし、これからも「迎賓の心」を大切にしてほしいと思います。また、福山市は起業家も多く、特徴のある企業も多い。これからも、日本の一部ではなく、世界の一部として、高品質な特色を出してほしいですね。

しょうゆ卓上びん
キッコーマン（株）／1961

### Profile プロフィール

1929年（昭和4年）東京都生まれ。1955年（昭和30年）東京芸術大学美術学部図案科卒業。1957年（昭和32年）GKインダストリアルデザイン研究所設立、所長となる。ヤマハオートバイ、キッコーマン卓上醤油瓶、秋田新幹線「こまち」などをデザイン。現在、（株）GKデザイン機構代表取締役会長他、GKデザイングループ代表。国際インダストリアルデザイン団体協議会名誉顧問。Design for the World（世界デザイン機構）会長。主な受賞にコーリン・キング賞受賞、芸術文化勲章受章（フランス）、勲四等旭日小綬章受章。著書に『幕の内弁当の美学』『モノと日本人』『道具論』『デザインに人生を賭ける』など。

文化・芸術というフィールドに活躍する2人の熱き思いをエールに。

# 栗原蘆水

日本を代表する書家

ROSUI KURIHARA

## 本物に触れられる「書のまち」福山へ。

福山市に生まれ育ち、中学時代に終戦を迎えました。そして高校時代、文化祭の際、書道部に作品提供したことがきっかけで、書のおもしろさを知り、本格的に学びはじめました。卒業前に、師匠である村上三島先生から内弟子にとお誘いをいただいたのですが、家族の反対もあり、デパートに就職。4年間働きながら、月に一度大阪へ行き、村上先生から書を学んでいました。しかし、職場は学歴社会。「実力社会に生きたい」と思い、家族を説得して、村上先生の内弟子となりました。僕は、日本の脱サラ第1号を自称しているんですよ。

村上先生が世界的に秀でた作品を収集しておられた隣にいた僕は、その「本物」を見て、触れることができた。上達したければ、字ばかり書いていてはダメ。肉筆の手本を見て、上達していくと感じました。それから僕も書に限らず、自分の感性に合う東洋の作品を収集するようになりました。僕は生涯をかけて、福山市を「書のまち」として確立し、志のある書を学ぶ人が「ふくやま書道美術館」で本物を見ながら上をめざせるようなまちにしたいですね。

印材・田黄（寄贈品より）

### Profile プロフィール

1931年（昭和6年）福山市に生まれ、書家村上三島の内弟子となり大阪に住む。1962年（昭和37年）第5回日展特選受賞。1969年（昭和44年）改組第1回日展審査員就任、以後12回務める。1988年（昭和63年）文部大臣賞受賞。1994年（平成6年）日本芸術院賞受賞、翌年（社）日展理事就任。2001年（平成13年）勲四等旭日小綬章受章。現在（社）日展常務理事、（財）全国書美術振興会常務理事、（財）ふくやま芸術文化振興財団理事を務める。2003年（平成15年）のふくやま書道美術館開館に合わせて日中の書画、文房至宝などの美術品を寄贈、その数は所蔵品の9割を占める。寄附による紺綬褒章の受章は10回になる。素朴でスケールの大きい書風を追求、そのファンは多い。